



湾岸・アラビア半島地域ニュース

サウジアラビア：鳥インフルエンザの発生

(11月15-19日付現地各紙)

- 11月12日、リヤド州ハラジ県で食肉用鶏1500羽が死んでいるのが発見され、検査の結果、高病原性H5N1が検出された。当局は鳥インフルエンザ対策緊急プランに従い、同養鶏場の全ての鶏を処分し、施設を消毒、周辺地域・感染経路等の調査を開始し、関係各方面に伝達した。同養鶏場従業員及び感染した鶏と直接接触した者は陰性が確認された。
- 14日、リヤド市郊外のダルマー地区、アル・マザーヒミーヤ地区で、15日、ハラジ県のアル・ハヤーシム地区でもH5N1が検出され、必要な対応策が採られた。
- 17日、ダルマー県(リヤド市西部約80km)の養鶏場2箇所では新たな鳥インフルエンザの発生が認められた。
- 18日、ハラジ県北部ハラジ・リヤド・ハイウェイ沿いの養鶏場で新たに鳥インフルエンザの感染が確認された。同養鶏場は12日に感染が判明した養鶏場の近くにある。又、同日、ダルマー県で感染が確認された養鶏場の近くの養鶏場でも感染が判明した。
- マルグラニ保健省報道官の発言(18日付記事)
 - (1) 鳥インフルエンザの感染の疑いのある(新たな症例)16名を病院に隔離している。彼等は鳥インフルエンザ発生地のごく近くにいた者で、高熱を発し、24時間看護下に置かれている。16名の殆どは発生地で活動した調査団職員で、残りは付近の者、又は感染した鶏と直接接触した者である。15日に鳥インフルエンザ感染の疑いで入院した職員5名は、今も観察下にある。専門機関の検査によると、「最悪の結果」は出ていない。
 - (2) アル・ハーイル地区でも同インフルエンザの発生が認められたが、リヤド市内での発生・感染の疑いに関する通報はない。
- GCCの対応
 - (1) 先週、UAE及びクウェイトは、公式にサウジからの鳥類及び鶏製品の輸入に警告を発した。バハレーン商工会議所筋によれば、バハレーンも同様の勧告を発すると見られている。
 - (2) 18日、GCC保健相会議事務局長は、サウジの保健省次官の出席の下、緊急会合を開き、保健相、都市村落相、農業相及び自然生物保護公社総裁からなる最高委員会を結成し、鳥インフルエンザ対策にあたる各省事務レベル委員会の開催を決定した。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799